

度々、書いている通り小生の昼休みのウォーキング経路の一つが銀座界限であり、西銀座通りは、その主要な経路である。先日歩いていた時に、銀座柳祭が来る 5 月 5 日に開催され旨のポスターが掲示されていた。今までは、銀座全域で実施されてきたGWイベントが西銀座通りで集中実施される事になり、観衆には朗報である。



(銀座の柳と追って挿し返る予定)

さて、銀座といえば、「柳」である。パリのマロニエと並び称される柳(「銀座の柳」西條八十作詞、中山晋平作曲)ではあるが、この銀座の柳は数奇な運命に翻弄されている。

時は明治初期、銀座通りを近代的な幹線道路とし、銀座煉瓦街が出来た際に、通りに風趣を添える街路樹として松、桜、楓などが検討されたけれども、銀座は元々海であったものを埋め立てた土地であり土中の水分が多く、かつ潮風の影響も予期されこれらの樹木では枯れ死ぬことが懸念された。根腐れを起こしにくく水に強い、即ち生命力の強い柳は遅く成長し、明治 17 年には、銀座の街路樹は柳に統一された。この柳がかえって新鮮で銀座といえば柳といわれるようになった。つまり、幽霊と対でしか考えられなかっただけのマイナーな柳が、街路樹の地位を獲得したのである。

第一の受難

大正 10 年、銀座の反対にも拘らず、京橋・新橋間の車道拡幅のために柳は撤去された。この時に、銀座の街路樹は「銀杏」に植え替えられた。この時同時に表参道や明治神宮にも植えられた。この銀杏も大正 12 年の関東大震災時に銀座焼失と共に焼失した。残っておれば銀座の風情も変わったものになったのかも知れない。

昭和初期の柳の復活

柳の風情を惜しむ声は強く、かの一世を風靡した“昔恋しい銀座の柳”と佐藤千代子が歌った「東京行進曲」が昭和 4 年に発売され、この動きに触発される形で昭和 6 年柳並木が復活した。これを喜んだ西條中山コンビによる「銀座の柳」(植えて嬉しい銀座の柳・・・)のレコードが世に出た。この時期に銀座に柳 300 本が植樹され、昭和 7 年には柳復興際が行われた。

第二の受難

またまた銀座の柳は災難に遭うのである。昭和 20 年 3 月 10 日の東京大空襲で銀座は焼失し、又しても柳は銀座から消えてしまったのである。

戦後の復興

戦後、街の復興と共に街路樹も徐々に整備され、昭和 29 年には「銀座柳の碑」が建立された。昭和 30 年には、銀座の街路樹の 4 分の 1 に当たる 343 本の柳があった。然しながら、銀座のシンボルであった柳も昭和 30 年代半ばからのビル建設に伴う地下水位の低下など環境変化により、枯れ死にするものが増えてきた。

第三の受難

この残った柳に、昭和43年、第三の災難が降りかかってきた。道路改修整備のため、銀座の柳は全て撤去されたのである。この時に誰の英断なのか不明だが、日野市にある建設省街路樹苗園に一部が移植された。昭和51年「銀座の柳由来」碑が銀座8丁目に建てられた。

不死鳥の如くに2世誕生

昭和59年時点での日野にある苗園の銀座の柳が僅かに3本であることを知った勝又氏等が枝を譲り受け、挿し木として育てたのが柳2世である。この二世柳を銀座8丁目、御門通に3本植樹した。時に昭和60年8月の事である。昭和62年には中央区の木に指定され、分植育成が盛んに行われ銀座のみならず各地に植樹された。日比谷交差点から桜田門に至る御堀端にも移植され二世が既に幽霊が出てても可笑しくない位の大きさに育っている。今では三世や四世も育っているようだ。

人間の身勝手さに翻弄されながらも、フェニックスの如くに蘇った「銀座の柳」である。このような歴史を知って銀ブラすると一層興味を覚えるだろう。矢張り、銀座には柳が似合う。それを再確認し、孫達に歴史の一端を少しでも知って貰いたいので、柳祭に孫達を連れて行こう。

(参考：各種のHP)